

P1~3・6 大津市歴史博物館
開館25周年記念企画展
比叡山 —みほとけの山—

P4 ミニ企画展 阿婆縛抄
ミニ企画展 趣味家謹製!!
申年の年賀状

P5 「大津歴博だより」100号の発刊によせて

大津市歴史博物館開館25周年記念企画展

比叡山 —みほとけの山—

平成27(2015)年10月10日(土)~11月23日(月・祝)



重要文化財 千手観音立像 比叡山延暦寺蔵 平安時代

比叡山 —みほとけの山—

平成27(2015)年10月10日(土)～11月23日(月・祝)

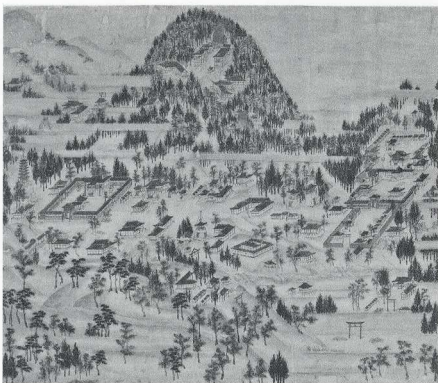
本年は、当館が開館して25周年という節目の年にあたります。そこで今秋、日本仏教の聖地の一つ、「比叡山」の仏教文化を紹介する展覧会を行います。

大津市と京都市をまたぎ、秀麗な姿をみせる比叡山は、古来より信仰の山として崇拝されてきました。大津に都が造られた7世紀半ばには、山麓に奈良の三輪神が勧請され(日吉大社の大宮・西本宮)、比叡山の神は、近江大津宮(大津京)を守護する役割を担ったといえます。8世紀の『古事記』には、「おおよまきのかみ大山咋神、またのな やますえのおおしのかみ このかみ は ちかつあふみのくにのひえやまにいます亦名、山末之大主神、此神者、坐近淡海國之日枝山」と紹介され、さらに麻田連陽春が詠んだ『懐風藻』では、藤原武智麻呂が比叡山に宝殿を建てた様子を「裨叡皇神山」「梵鐘入風傳」などと詠んでいます。このように古代から神の坐す山であった比叡山に、伝教大師最澄が延暦寺を建立したのは延暦7年(788)のことです。それ以来、平安京を守護する山として多くの崇拝を集め、天台宗の総本山として日本の仏教界の中心を担っていきます。延暦寺は我が国最大の寺院の一つであり、近江や京都、さらには全国津々浦々まで多大な影響力を持つようになりました。また、平安仏教の根本道場として山上に多くの堂舎や山坊が林立し、膨大な数の仏像や仏画が造られ、安置されました。さらにはその山上に加え、広範囲にわたる山麓にも里坊や関連寺院が多く建立され、巨大な霊地を呈していました。お膝元の坂本や仰木、堅田、さらには比良山や京都側にも、今なお比叡山にゆかりの深い仏像や史料などが多数伝来しています。

今回、広範囲にわたる比叡山の山麓に伝わる仏像や仏画、さらには比叡山の知識の宝庫である叡山文庫の古文書や絵図などを展示することによって、その秘められた美しさと歴史を紹介します。

※展示替があります。

I. 比叡山



日吉山王宮曼荼羅図 室町時代
日吉大社蔵
中世の日吉社の様子を表しています。

II. 比叡山の仏像

1. 延暦寺の仏像・仏画



不動明王二童子像 鎌倉時代
比叡山延暦寺(無動寺)蔵
運慶工房に近い雄渾な作風を持っています。



四天王像(多聞天) 平安時代
比叡山延暦寺(法華堂)蔵
抑揚があり、ボリュームのある作風です。

2. 延暦寺里坊の仏像・仏画



如意輪観音坐像 鎌倉時代
理性院蔵
上品で均整のとれた作風を持っています。



聖観音立像 南北朝時代
延暦寺山内寺院蔵
中国(宋)風の珍しい観音像です。



日吉山王垂迹神曼荼羅図 鎌倉時代
延暦寺山内寺院蔵
日吉社の25社を描いています。

III. 比叡山麓、東坂本から横川山麓の仏像



観音菩薩立像(阿弥陀三尊) 鎌倉時代
坂本・西教寺蔵
快慶の弟子、行快の法橋時代の作です。



毘沙門天立像 平安時代
千野・深光寺蔵
邪鬼も含めて一木から造られています。



虚空蔵菩薩立像 平安時代
仰木・華開寺蔵
彫が浅く、平穏な作風は院政期の造像です。

IV. 比良山麓の仏像



地藏菩薩立像 平安時代
今堅田・海蔵寺蔵
一木造で重量感のある作風です。



十一面観音坐像 奈良時代
奈良時代後半に流行した、一木乾漆造という構造を持っています。

V. 長等山麓の仏像



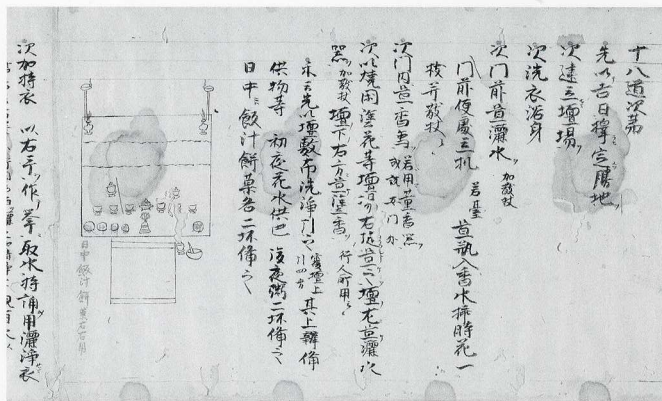
聖観音坐像 鎌倉時代
藤尾・寂光寺蔵
運慶一門の作風が顕著にみられる像です。

あさばしょう
阿婆縛抄

企画展「比叡山-みほとけの山-」第2会場

会期：10月14日(水)～11月23日(月・祝)

『阿婆縛抄』は、天台宗に関係深い諸尊の図像や諸尊法の次第などが記されたもので、全200巻を超える、いわば台密(天台密教)の百科事典のような大部の書物群です。鎌倉時代の13世紀中頃から後半にかけて、比叡山延暦寺の僧・承澄、もしくはその弟子の尊澄によって編纂されたといわれています。残念ながら自筆本は伝存せず、中世の書写本もあまり残ってはいませんが、叡山文庫に残る「天海蔵本」や「毘沙門堂本」、「実蔵坊真如蔵本」をはじめとして、西教寺の正教蔵本など、代表的な写本が天津に現存しています。本展では、企画展「比叡山」第2会場として、延暦寺や西教寺などに現存する写本を厳選して紹介します。



阿婆縛抄(旧延暦寺行泉院本) 室町時代

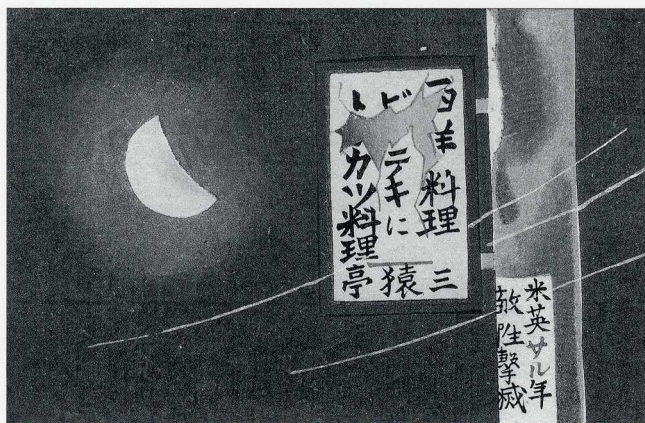
趣味家謹製!! 申年の年賀状

会期：12月8日(火)～平成28年1月17日(日)

大正・昭和の趣味家(コレクター)たちが交換会を通じて制作した木版絵葉書から、年の変わり目にあわせて年賀状をご紹介します。今年は、昭和7年(1932)と昭和19年(1944)に交換された申年の年賀状です。昭和19年の年賀状では、役者絵などの見立てや図柄の美しさにこだわった趣味家らしい図柄がみられる一方で、戦時下を物語るものも多く見られます。趣向を凝らした年賀状を、垣間見える当時の世相とともにご覧ください。



孫悟空 猿之助
三代長谷川貞信画 本館蔵



西洋料理三猿亭 テキニカツ 本館蔵

「大津歴博だより」第100号の発刊によせて

「大津歴博だより」は、今号で100号を迎えました。これも、ご愛読いただいた皆さまのご指導の賜物と、厚く感謝申し上げます。「大津歴博だより」の創刊号は、平成2年（1990）1月1日に発刊しました。以来、毎年4回の発行を続け、今号に至ります。少しその歴史をひもときますと、歴史博物館の開館が平成2年10月28日ですから、創刊当時はまだ博物館が建設中で、表紙写真も、クレーンのたつ工事風景です（写真1参照）。発刊当初はB5版で、タイトルも「博物館だより」でしたが、開館5周年を期して第23号（平成7年9月20日発行）から「大津歴博だより」と改称。さらに第86号（平成24年5月15日発行）から、より親しみやすいものへと、A4版に模様替えし、紙面構成も一新しました。

さて、このような「たより」を発行したことについては理由がありました。それは、博物館建設事業の基礎となった、新修大津市史（全10巻）の編さん事業が、昭和51年（1976）4月からスタートしたのですが、その翌52年4月30日付けで「季報大津市史」と題した「たより（通信）」を発行したのです（写真2参照）。この「季報大津市史」は、編さん事業に対して貴重な資料をご提供いただいた市民を始めとする皆さま方や関係の各機関などに、市史発刊の現状を逐次お報せすることで、編さん事業にご理解をいただけるのではないかと考えたことによっています。「季報大津市史」は、昭和63年3月31日、第43号をもって終わりましたが、2年の空白をはさみ、その役割を、歴史博物館に引き継ぐことにしたのです。これによって、博物館の活動を身近に知っていただき、そして多くの皆さまに「歴博ファン」になっていただきたいと考えたからです。いま100号を重ね、所期の目的をいささかなりとも達成できたのではないかと、自負している次第です。

現在継続しているシリーズの一つである「収蔵品紹介」は第2号から開始し、現在のタイトル名に改めた第23号からは、資料調査によって新たに発見できたことや、それにまつわる話題を紹介しようと、「学芸員のノートから」をシリーズ化しました。今後も、新たな情報の発信につとめてまいります。皆さま方のご意見をお寄せいただくなかで、さまざまに工夫をしていきたいと考えています。第100号に無事到達できたことにつき、あらためて皆さまにお礼を申し上げますとともに、今後も引き続きご協力、ご指導の程、よろしくをお願いします。

（館長 樋爪 修）

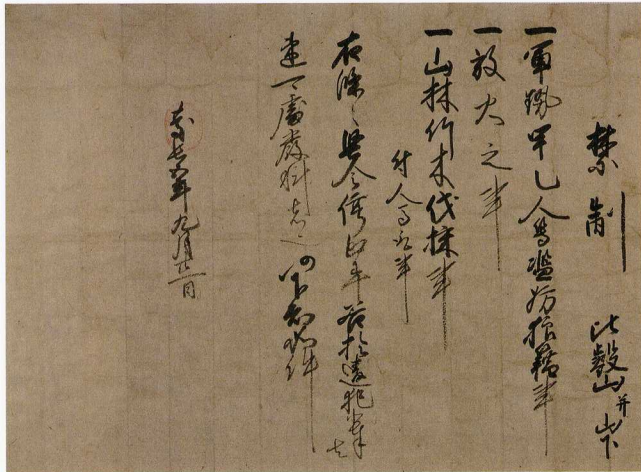


写真1 「博物館だより」創刊号

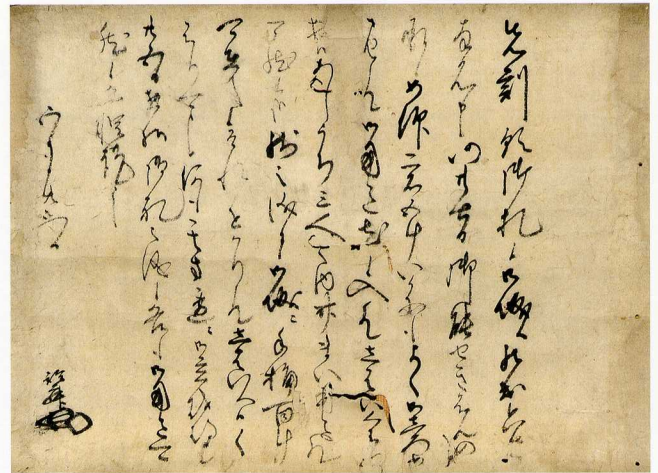


写真2 「季報大津市史」創刊号

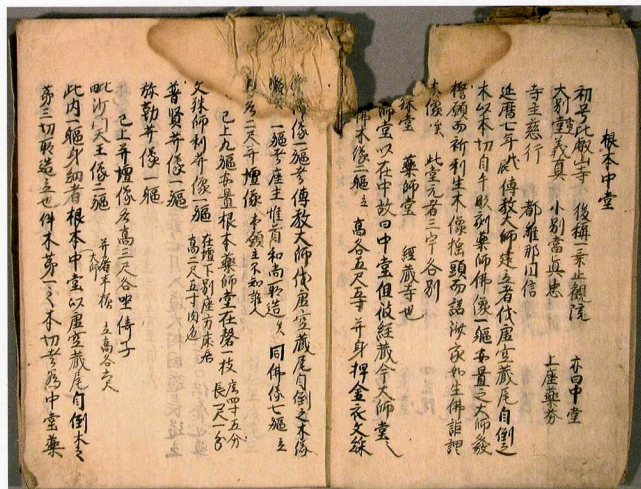
VI. 比叡山と古文書・典籍・絵図



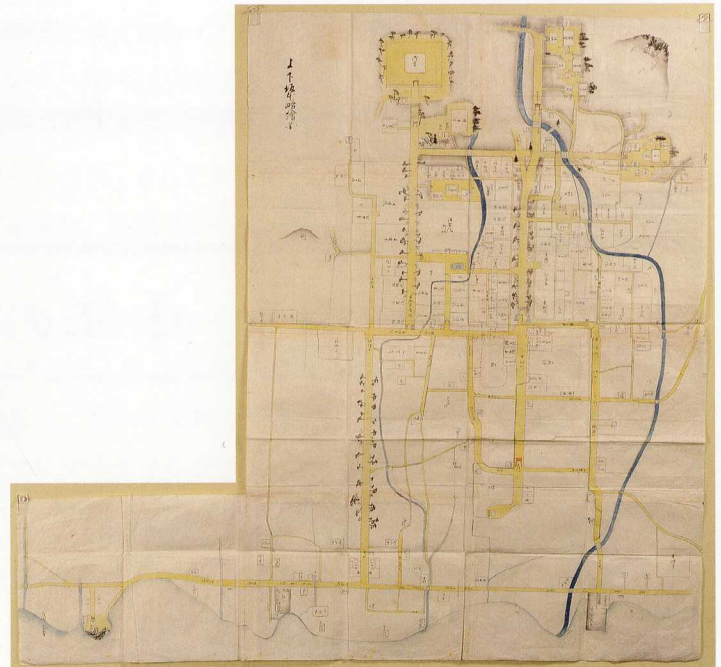
徳川家康禁制 比叡山延暦寺蔵 安土桃山時代
関ヶ原合戦が終わった直後に比叡山・山下に出された軍勢や放火を禁じた文書です。



詮舜書状 延暦寺山内寺院蔵 安土桃山時代
山門復興に尽力した観音寺詮舜の新出文書。大津城に関する記述もあります。



山門堂舎記 比叡山延暦寺(叡山文庫・真如蔵)蔵 江戸時代
鎌倉時代に成立し、江戸時代に書写された山門三塔の堂舎の詳細を書き上げたもの。比叡山延暦寺を総覧するのに欠かせない貴重書。



上下坂本略図 比叡山延暦寺(叡山文庫・止観院)蔵 江戸時代
日吉大社や里坊の位置を知る貴重な絵図。

ご利用案内



- 交通機関
 - ・京阪電鉄石山坂本線別所駅 徒歩5分
 - ・JR大津駅 徒歩15分

- 駐車場 約70台(無料)

■常設展示観覧料

区分	個人	団体(15名以上)
一般	270円	210円
高校生・大学生	200円	160円
小学生・中学生	130円	100円

- ◆大津市内在住の65歳以上の方、市内在住の障害者の方は無料。
- ◆三二企画展は、常設展観覧料でご覧いただけます。
- ◆企画展の観覧料については、その都度定めます。

■開館時間

午前9時～午後5時(展示室への入場は午後4時30分まで)

■休館日

月曜日(祝日・振替休日の場合は開館し、翌日が休館)
祝日の翌日(土・日曜日の場合は開館)
年末年始(12月27日～1月5日)
その他、業務の都合により休館する場合があります。

—— 歴博カードのご案内 ——

当館主催の展覧館を自由に観覧いただける定期観覧券です。また、当館発行の出版物や催し物の割引、様々な情報のご案内など、多くの特典を設けております。(1年間有効)

料金	一般	高大学	小中学
	2,000円	1,500円	1,000円

★詳しくは博物館までお問い合わせ下さい。



大津市歴史博物館

〒520-0037 滋賀県大津市御陵町2番2号
TEL 077-521-2100 FAX 077-521-2666
http://www.rekihaku.otsu.shiga.jp/

大津歴博だより No.100 平成27年9月10日